



てらるる



2021年
8月
No.884

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>

■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円(郵税を含む)

■振替口座■ 00190-7-71734

説教「あなたのそばにある平和」

日本福音ルーテル下関教会・厚狭教会・宇部教会牧師 中島共生

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」
(ヨハネによる福音書15章12節)



「今日の世界的なCOVID-19感染拡大にあつて、病院や施設を訪問する機会が減ってしまいました。」

「ご家族さえ面会が厳しく制限されている状況に在つて、『お元氣ですか』と訪ねてゆくことのままならぬ日常は、やはり平時とは異なると感じずにはいられません。施設によつては、市内の感染状況と照らし合わせながら面会制限の緩和がありま

すから、制限が緩和されたと報告を受けたならば訪ねてゆきます。ある施設に入るAさんを訪問した時のことです。その施設では、施設内に立ち入つての面会は許されておられません。ですが、入り口の自動ドア越しにお顔を見ることが出来ます。そして私の携帯電話と施設の電話とを繋ぎ、ガラス一枚を隔ててはありますが近くに居ながらお話しすることが出来るよう配慮してくださいます。何度か訪問するうち、その方式にお互い慣れてきた頃のことです。面会の最後にはお祈りをするのですが、施設の職員さんが少しだけ、10センチほど自動ドアを開けてくださいました。そして私の手を消毒するよう促し、『どうぞ、Aさんの手を

握つてあげてください』と言われたのです。驚きと同時に、喜びがこみ上げてきました。その職員さんは、いつも面会を隣で見ている中で、お祈りは特別なものだと感じられたそうです。そしてぎつと手を握つたほうが良いと感じたと言つたのです。私たちは教会で、それぞれの生活の中で、祈ります。祈りがどれほどの力を持つているか、疑うことはなくとも、どれほどその力を確信しているでしょうか。しかし、祈り合う姿を見て、確かにそこには力があるのだと感じられた隣人がいたのです。

訪問の度に「教会の皆さんは元氣ですか?」「教会は礼拝できていますか?」と繰り返して心配されるAさんの姿を見て、Aさんが本当に大切にしているもの、委ねているものが何であるかがはつきりと伝わつていたのです。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」この言葉は、

6月にはミャンマーにおいて教会を標的とした砲撃が何度もありました。平和は、どれだけ手を延ばしても届かないようなところにあるとさえ思っています。

しかしイエスさまは、隣人を愛することを私たちに最も大切な掟として、一番近くに、いつでも振り返り、立ち帰ることのできる場所に置かれました。何故なら、平和は私たちのすぐそばにあるからです。

私たちが隣人へと愛を持って接するとき、そこには確かにキリストの平和があります。とても小さいことかも知れません。

しかし、この小さな平和を信じられずに、どうして大きな平和を信じる事ができるでしょうか。イエスさまが示された、私たちに祈り求めてゆくことのできる平和。隣人へと愛をもつて接することによつて、この世界に現わされてゆく平和。それは扉をたつた10センチ開けることしかできないものかも知れません。

しかし、この10センチが、確かにこの世界にキリストの平和があることを教えてくれているのだと思えてならないのです。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」この言葉は、

6月にはミャンマーにおいて教会を標的とした砲撃が何度もありました。平和は、どれだけ手を延ばしても届かないようなところにあるとさえ思っています。

しかしイエスさまは、隣人を愛することを私たちに最も大切な掟として、一番近くに、いつでも振り返り、立ち帰ることのできる場所に置かれました。何故なら、平和は私たちのすぐそばにあるからです。

私たちが隣人へと愛を持って接するとき、そこには確かにキリストの平和があります。とても小さいことかも知れません。

しかし、この小さな平和を信じられずに、どうして大きな平和を信じる事ができるでしょうか。イエスさまが示された、私たちに祈り求めてゆくことのできる平和。隣人へと愛をもつて接することによつて、この世界に現わされてゆく平和。それは扉をたつた10センチ開けることしかできないものかも知れません。



2000年、イエスさまが大切な教えを残されてから長い時が流れました。それでも、この世界は平和であるとは言えません。

「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦、苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。」(詩編46)

「シャーツ」いきなり目の前のカーテンが閉められました。6人部屋に入院していた私は面食らいました。慌てた様子で白衣の先生が「検査で陽性が出たんだよね」と私に言い、そして部屋を個室に移つてもらわれないとならないんだと何人かの看護士さんたちが私の荷物をカタカタとまとめ始めます。しかも普段どんなに私が不便そうにしても一度も手伝ってくれなかった看護士さんまで手伝つて下さつて。『あら、ありがとう』と思いつつ、

これは10年前、インフルエンザの時の体験です。時々目に見えなくて触れられないものは恐怖や不安を私たちに抱かせます。私たちがあたたかも見えて触れられるものだけしか安全ではないと思つ時があります。でも目に見えて触れられるものも見えなくて触れられないものも全ては神様に守られています。決して恐れることはありません。

「命のこぼれ」
伊藤千奈

部屋を移つてからは「触れるなキケン扱いです。なるべく部屋から出ないように言われ、部屋に入つてくる看護士さんはビールのエプロンをかけ私の部屋を出たらエプロンを捨てていました。違う病棟に入院していた友人も私と親しく接触していたと言ふ理由で個室に移つたそうです。他の人にうつらないように看護士さんのため、私が悪いの?」

「Pray! Play!! Friday!!! in ZOOM」
7月~12月まで 月に1回開催予定
参加対象 18歳から35歳まで (原則高校生不可)
Instagram Check & Follow
全国のルーテル青年と聖書の学びや交流をしませんか?

